

麦の郷

通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

May 2024

こじか園/第二こじか園/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/ソーシャルファームピネル/おぎピース/ソーシャルファームもぎたて/meglück(メグリユック)/六星舎/叶夢向/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷 紀の川生活支援センター/障害者就業・生活支援センター つれもて/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/ハートフルハウス 創/事務所/ゆめ・やりたいこと実現センター/ちいき暮らしサポートセンターわかやま/Rework支援センターANEW/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
〒640-8301 和歌山市岩橋643 <http://www.muginosato.jp>

お花見



和歌山生活支援センター
4月1日(月) 和歌山城



くろしお作業所
4月2日(火) 根来の桜並木



私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとめ、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

第28回西和佐地区社会福祉協議会・麦の郷春祭り開催



4月6日、西和佐小学校において「第28回西和佐地区社会福祉協議会・麦の郷春祭り」が開催されました。長く続いたコロナ禍があけて、実に5年振りの開催となりました。

5年間もの長きに渡り、休止していたこともあり、どれだけの方が来られるのか正直、心配していました。しかしその心配はありがたいことに大きく外れ、西和佐小学校の体育館には200名の西和佐地域の方々、麦の郷の仲間が集まりました。

冒頭に西和佐地区社会福祉協議会 会長 山田 恒次様 より久しぶりの開催に対する喜びとご来賓、ご来客の皆様にお礼の挨拶がありました。

ご来賓の和歌山県知事 岸本 周平 様の代理として和歌山県福祉保健政策局 局長 新解 美紀 様が知事からのメッセージを代読してくれました。障害のある人が地域で安心して暮らしていくためには、地域の理解が何よりも大切であり、交流が続いているからこそ28回もこの祭りができることが素晴らしいと評価いただきました。

その後も衆議院議員 林 佑美 様、和歌山市議会議員 尾崎 方哉 様、和歌山市議会議員 芝本 和己 様、西和佐地区連合自治会 会長 臼井 正夫 様 から続けてお祝いのメッセージをいただきました。

交流会では、お弁当の他に麦の郷各事業所の製品を配り、くろしお作業所の綿あめにも行列ができました。お弁当を食べはじめると、麦の郷みんなでおどり隊によるよさこい踊りがあり、うらじゃ踊りでは、会場からも参加者を募り、楽しく踊りました。またカラオケ大会、最後は恒例のピンゴゲームをおこない、大成功で幕を閉じました。

この祭りが成功できたのは、長きに渡り休止であっても本祭りの再開を心待ちにしてくれていた西和佐地区社会福祉協議会のみなさんをはじめ、西和佐支所、西和佐小学校といった地域のみなさんのご協力があったのことに感じています。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。次回も多くの来場者が楽しめる祭りとなるよう企画していきたいです。
(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)

✿ 楽しみにしていたお花見 ✿

和歌浦の東照宮と御手洗池公園には桜が咲き誇っており、はぐるま共同作業所のみんなでお花見に行きました。当日は少し曇り空ではありましたが、暖かく過ごしやすい気候でみんなは広場のベンチに座り、一緒に美しい桜を眺めながらおしゃべりしたり、クッキーを和気藹々と食べたりとまったり過ごし、春の訪れを共に分かち合いました。

(はぐるま共同作業所 廣瀬 智士)



安心して、自分らしく過ごせる社会づくりって？



去る1月20日、人権擁護・虐待防止に関する職員研修会が、「障害者福祉現場と人権～やまゆり園事件から考える」をテーマに行われました。今回は、麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所の主催、当法人を含め7つの法人が共催で、230名の障害福祉に関わる職員が大切な学びを共有することができました。講師として、東京都立大学の矢嶋里絵氏をお招きして、「津久井やまゆり園事件を契機として考える知的障害のある人と家族の人権」という 주제로講演をいただきました。

事件当時の新聞の記事やインタビューの様子を踏まえての関係法における「知的障害者」と家族の位置づけについての説明と津久井やまゆり園事件を契機に考察すべきことについてなどをお話して下さいました。

今回は障害者の施設で起きた事件を取り上げた研修でしたが、それぞれの地域のなかで家族もひっくるめ、

障害があっても無くても、その人らしく生活が送れるように当事者や関係者が話し合い考え合うなかの輪を広げることがポイントになると思います。そして、諦めずに周りの人たちに発信していき、共存していきける社会になっていく必要があると感じました。障害者に対する偏見や差別などが少しずつ無くなるためには、自分自身がどう考え、社会に向けて働きかけていける方法を自問自答していき、関係法についても学んでいかないと前に進んで行かないなと思いました。

虐待については、それぞれの施設で働いているなかで人権擁護や虐待防止の研修は行われていると思いますが、日々の実践の中で気を付ける必要があると思います。ふとした瞬間に気を付けているつもりでも、自覚や悪気なく虐待は起きてしまうことを認識しておかなくてはいけない事を再確認しました。なかでも自己主張が何らかの事情でうまく伝えられない人については、より一層、注意を払い、まわりにいる方たちと一丸となり、それぞれの主張する意思を奪わないような職場集団にしていく努力が必要だと思いました。

世の中で起きる痛ましい事件や事故が起きない為に、危機管理を徹底し、見直し、学習をしていく必要を改めて感じました。それぞれの施設の地域社会との協力を日頃から声をかけ合いながら引き続きすすめていきたいと思いました。利用者も、職員も、利用者の家族も、地域の方も安心して生活ができる環境づくりをすすめていけたらと思います。

(第二こじか園 山本 祥久)

入職にあたり



4月からこじか園に入職した福埜 莉未です。私は入職してから数日経ちましたが、まだ分からない事がたくさんあり、周りの先生に子どもとどう関わればいいのか教えてもらいながら仕事に慣れることで精一杯です。ですが、学生の時に障がいのある子

どもと関わったことがあり、子どものペースに合わせて気持ちに寄り添うことを大切にしているうちに、それから子どもの笑顔が見られるようになったことがありました。子どものペースに合わせてゆっくり関わっていけるところが自分の強みだと思っています。今後は、子ども一人ひとりの良いところを見つけ、たくさん笑顔を引き出していけるように、子どもとたくさん体を動かして遊んだり、気持ちに寄り添ったり、元気に楽しく関わっていきたくと思っています。そのために、体調を崩さないように気を付けていつも元気いっぱい過ごせるようにしたいです。そして自分自身も笑顔を忘れずに余裕をもって関わっていくことで、子ども一人ひとりに寄り添っていきたくです。

(こじか園 福埜 莉未)

奪い合うのではなく、みんなで笑い合えたら ～麦の郷 多文化共生の取り組み～



「麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。」これは、麦の郷の理念のうちの一つです。紀の川市にある「麦の郷 紀の川生活支援センター（以下、当センター）」では、「多文化共生」の取り組みを始めています。きっかけは、コロナ禍前にまでさかのぼります。当時、地域の防災訓練に行くと、外国から来た若い技能実習生がたくさん参加されていました。皆さん、職場の近くのアパートに住んでいるとのこと。もし災害が起こったら、同じ地域住民として助け合えたらいいなと感じました。

また、2023年3月末時点では紀の川市内に458名の在住外国人がいるというデータがあり、紀の川市の人口（2024年3月末時点で59,362名）と比較すると約130人に1人くらいの割合になります。高齢化が進んでいる地域ということもあり、農業や工業・介護分野で働いている人も多く、作業着を着て数名で自転車に乗り、スーパーに買い物に行く姿もよく見かけるようになりました。「日本に来て、紀の川市で生活して良かったな～」と思ってもらいたい、何か困ったことがあれば相談にのれることがあったら…。

そんな話をすると、「障害福祉分野の麦の郷が、何故『外国人』の支援なのですか？」と、聞かれることもあります。当センターは紀の川市の委託を受け、生きづらさや障害のある児・者の相談を受けるとともに、安心して過ごせる居場所（地域活動支援センター）を運営しています。地域で孤立している、生きづらさや障害のある人を少しでも減らしたいという思いから、障害福祉分野以外にも様々な団体や地域の方々となつたり、理解啓発をはかっています。

そんな中、地域に住んでいる外国につながる方々への支援をしているいくつかの団体とつながることができました。

その際「やっと、つながれた！」と、嬉しく思いました。実は、過去に何度か地域でお住まいの外国の方が相談に来られたことがあったのです。言葉や文化の壁がありながらも、一生懸命にこの地域で生活するなかで、どこかで麦の郷のことを知り「困っています」とお越しくださいました。何かお手伝いできることはないかと調べてみても、障害福祉分野や介護福祉分野と違い、活用できる手立てが少なく戸惑いました。その経験から、麦の郷の理念にある「全ての人」の中には、地域にお住いの外国につながる方々も含まれているという確信のもと、「多文化共生」の取り組みをしたいと考えてきました。

その後、ご縁をいただき、シリア出身のTamara（タマラ）さんと、芝田さんというボランティアさんが月に数回当センターに来てくださっています。ご主人やお子さんが会社や学校へ行った後は、一人自宅で過ごしている時間が長かったそうですが、当センターではシリア料理を教えてください、イベントでは民族衣装を着てシリアコーヒー（カルダモンというスパイスが入っており、独特の良い香り）をふるまってくださいました。世界では、シリアも含めて平和とは言えない状況が続いています。奪い合うのではなく、それぞれの国や政治・宗教・文化の違いを認め合い、誰かが困っていたら声をかけ助け合う、一緒に美味しいものを食べながら楽しい時間を共有して笑い合える…そんな機会や居場所を、今後も継続してつくっていきたくて考えています。

（麦の郷 紀の川生活支援センター 窪原 麻希）

わされん防災委員会学習会開催



3月9日（土）和歌山市東部コミュニティセンターにおいて「わされん防災委員会学習会」が開催されました。土曜日の開催でしたが、元旦に起きた能登半島地震の影響もあり、100名を超える参加者がありました。わされん防災委員会平澤委員長は、能登半島地震からもうかがえる、いつ訪れるかわからない地震危機に備え、仲間の命を守っていくことを目的に研修会を企画してきたと挨拶で述べられていました。

第1部は和歌山県防災企画課企画班柏木忠弘班長より、南海トラフ地震や中央構造線地震における和歌山県の被害予測の状況、情報発信や避難手段、また防災や減災につながる対策を丁寧に講演の中で語っていただきました。また能登半島地震では和歌山県からの応援業務をおこなった経験から、写真を交えて現地の惨状や避難生活もお話しいただきました。和歌山県障害福祉課新解美紀課長（現局長）は、利用者が災害後に少しでも安心して避難所生活が可能となるよう、災害時要援護者の登録などの必要性などを訴えられました。

第2部では参加者がグループに分かれて、きいちゃ



んの災害避難ゲームをおこないました。私もはじめてこのゲームをやりました。内容は災害後、学校を避難所として開設し、みんなで協力し合いながら、様々なトラブルを解決していき、避難所運営

を体験するボードゲームです。個々のいろんな意見や考え方、また防災の知識をゲームで知ることができると、各事業所のスタッフ会議や仲間を交えたレクリエーションとしても効果的と感じました。

最後に、わされん鈴木会長が閉会挨拶の中で、研修会の内容もさることながら、コロナ禍以降ようやく、みんなで集まる研修会が開催されたことは、大きな安心と喜びであると締めくくられました。わされん、きょうされんの研修や学習会が終わったあと、実践や希望を語り合う「なかま」とのひと時を思い出し、私も強く同感しました。

（麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二）



* むぎ・わくわくレポート 22 *

ようやく春が訪れ暖かくなってきました。六星舎も9年目に入ります。今回は六星舎の中でも和歌山市内にある和歌山職業能力開発促進センター様での日常清掃の様子をお伝えしたいと思います。施設内には大きく3つの作業班があり軽作業・屋外作業・そして日常清掃作業班です。毎日お昼から夕方まで3、4名と職員とで行きます。そこでの合言葉は「いつも笑顔でこやか

に、元気で頑張ります」です。最初はなれずに戸惑っていた仲間も徐々になれ一生懸命働きます。センターの職員さんからも「いつもきれいにしてくれてありがとう」と声をかけていただき、失敗しても「ここができてないよ」と優しく教えてくれます。何より自分たちが掃除をしてきれいに保たれている施設を見ると気持ちがよく、これからも頑張ろうという気持ちにつながっています。 （六星舎 森 貴孝）

復活！みんなのつながり文化祭



2月25日(日)に『第47回障害児者家族のつながりを広める文化祭』通称『つな文』が5年ぶりに開催されました。

和歌山市内の支援学校と作業所が共同で開催してきた『つな文』。コロナ禍で休止が続き、学校のかかわり方や開催場所の変更などもあり不安だらけの出発でしたが、互いに意見を出し合い、これまでにない『つな文』を開催することができました。

当日は雨天でしたが、1000名を超える方々にご来場いただき、久しぶりの開催を喜んでくださる笑顔であふれていました。

これからも、「支援学校の卒業生や障害を持った方々が、地域で安心して暮らしていくためのつながりをつくる」という理念のもと、支援学校と作業所がしっかりとつながり、もっと皆さんに楽しんでいただける『つな文』を開催していきたいと思ひます。

(第47回障害児者家族のつながりを広める文化祭 副事務局 長谷 理世)

「お米かりんとう」 決算セール御礼



今年度生産活動の黒字にむけて緊急企画で取り組んだお米かりんとうは、約1ヵ月たらずで246件4,198袋1,082,600円の受注となり黒字が確定いたしました。ご支援・ご協力いただきました全ての皆様に心から御礼申し上げます。2014年4月1日「紀州のめぐみでコトづくり、ヒトつなぎ」の産声で誕生した当事業所。最高の10周年のお祝いに感謝×2!! (ソーシャルファームもぎたて 中原 力也)

卒園式



3月26日(火)、こじか園では卒園式を行いました。天気はあいにくの雨模様でしたが、今年度は在園児も一緒に式に参加し、来賓の方々にも参列して頂いて、4年ぶりにみんなで卒園児13名を送り出すことができました。

卒園証書授与式では、お父さんやお母さんと一緒に前に出て、晴れ晴れした表情で卒園証書を受け取っていた子ども達。在園児達も、1年間頑張った証としての色紙をもらい、嬉しそうに見つめていました。これまで培ってきた力をバネに、4月からの新生活も、こじかっくらしく生き生きと楽しんで欲しいと思ひます。(こじか園 藤丸 祥子)

「第3回未来の匠展」に行ってきました



めぐりゅっくは初めての出展。みんな自分の力作を選んで並べました。他の作業所の作品も、細かく作られたものや、勢いよく画面いっぱいの作品、想いのこもった素敵な作品ばかりで、見学に行ったメンバー達も「(自分の) あった!」「うまいなあ」「私こんどこれ描く!」と刺激をもらっていました。隣の支援学校作品展で懐かしい先生にも会えて嬉しい一日になりました。(meglück 閑林 泉)

おともだち式



4月5日(金)に、第二こじか園のおともだち式を行いました。卒園式が終わってから、少しさみしく感じていましたが、新しく10名の子どもたちが元気に入園しました。にぎやかな式の中、5歳児からお祝いに花束をプレゼントしました。これから始まる園生活が楽しみです。じっくり、たっぶり、ていねいに寄り添っていきなさいと思ひます。(第二こじか園 野口 美加)

並べるの大好き!



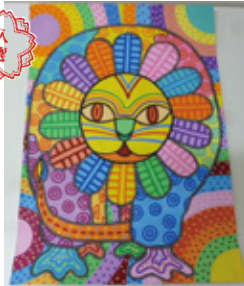
はぐるま共同作業所の今泉さんは給食事業部でも熱心に仕事に励んでくれています。得意はキャベツの千切り。彼がない時にはメニューから消えるほどです。そして並べることが大好き!今日はキュウリのヘタをなんとも芸術的に並べてくれたので、思わず一枚パチリ!「にっこり笑顔」もつけてくれました。どんな事でも豊かに楽しむことはできるんですね。なかまにいろいろと学ぶ毎日です。(はぐるま共同作業所 北山 郁子)

きょうされんグッズデザインコンクール入賞



澁田 大輔さん

きょうされんグッズデザインコンクールで入賞できて家族みんなで喜びました。動物園で眠そうにしているフクロウがかわいかったので描きました。これからも大好きな動物をたくさん描きたいと思います。



山下 恵理さん

カラフルでかわいいライオンを見て、楽しい気持ちになってもらえたらいいなと思って描きました。色の組み合わせを工夫しました。



廣瀬 亘さん

よかったよ

日本財団寄贈



3月28日、日本財団様よりリフト付き福祉車両をくろしお作業所へ寄贈していただきました。くろしお作業所では送迎を利用されている方が多く、リフト付きの車両は本当に必要不可欠なものです。大切に運用させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。(くろしお作業所 川崎 愛香)

能登半島地震支援

わされんでは能登半島地震支援に取り組んでいます。是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。問い合わせ先は、わされん会員の各事業所まで。



むきのひと



和の杜
大末 翔平

はぐるま共同作業所和の杜の大末翔平です。見たことある顔なのに名前が違うような…という方には、旧姓の「みなと」とお伝えした方がいいかもしれません。私が麦の郷に入職してこの春で15年目を迎えました。現在働いている和の杜では7年目になります。

この春、和の杜では大きな人員体制の変化がありました。新たな体制を初めて聞いた時、本当にやっていけるのだろうか？今まで通りお客様の要望に応えることができるのだろうか？なかまはショックを受けるのでは…、としばらく悩みました。しかしそれは杞憂でした。なかま達に新体制を発表したとき、みんなは拍手で迎えてくれたのです。これまでも私はなかまのポジティブさに助けられ、励まされてきました。そして今回もまた助けられたのです。“和の杜のみんなが仕事に来てくれる限りは大丈夫”。ちょっぴり自信がつかしました。

実際新体制が始まった今、我々スタッフはバタバタと走り回っていますが、現場では職人気質のなかま達が今までと変わりなく仕事を続けてくれています。しばらくの間ご迷惑をおかけするかもしれませんが、今後とも和の杜をよろしくお願いいたします。